

図書館教育ニュース

令和2年8月8日発行 第1537号付録

★定期刊行物は終わる期間を予定しない刊行物です。年度が替わりましても、
購読中止のお申し出がない場合、引き続きご送付申し上げます。
★著作権法により、本紙の無断複製・転載は禁じられています。

©少年写真新聞社 2020



少年写真新聞
Juniors' Visual Journal

株式会社 少年写真新聞社 〒102-8232 東京都千代田区九段南4-7-16 市ヶ谷KTビル1F ホームページ: <https://www.schoolpress.co.jp/>

コロナ時代に感染症の日本史から学ぶ

長崎大学 熱帯医学研究所 教授 山本太郎

大仏建立を促した天然痘

日本は稲作、漢字、仏教、法律と多くを中国から取り入れました。そうした大陸との交流の負の側面として感染症が持ち込まれました。代表は天然痘と結核です。

天然痘については、平安時代の歴史書『続日本紀』に、七三五年に九州大宰府で天然痘と思われる感染症の発生を伝える記述があります。『続日本紀』は、平安時代初期に編纂された勅撰史書で、文武天皇元年(六九七年)から桓武天皇延暦一〇年(七九一年)までの九五年間を扱っています。全四〇巻からなる奈良時代の基本史書です。ちなみに大宰府とは、七世紀に筑前国(現在の福岡県)に置かれた地方行政機関で、大陸との玄関口としての機能を果たしていました。その時の流行が、遣唐使や遣新羅使で往来のあった中国大陆、朝鮮半島から伝播したことが推測できます。その後天然痘は、都のあった平城京でも流行し、政権中枢を担う貴族が次々と倒れ、朝廷は一時機能不全に陥るほどでした。国内の死者数は全人口の三分の一とも四分の一ともいわれ、一〇〇万〜一五〇万人が亡くなりました。時の天皇で

あった聖武天皇は疫病の終息を願って仏教への帰依を強め、それが日本における仏教の広がりにつながったともいわれています。東大寺とその大仏は、天然痘の平癒など、社会の平安を願って聖武天皇が建造を命じたものです。

天然痘はその後何度も流行しましたが、一〇世紀頃以降、聖武天皇の時代のような、一度に多くの犠牲者を出すことはなくなっています。一種の風土病として定着したのです。短所さえも長所に見えることを「あばたもえくぼ」と言いますが、これは天然痘が治ったあと(痘痕)すらえくぼに見えるという意味で、こんな言葉が成り立つほど天然痘は日常化したものとなりました。

女工を大いに泣かした結核

次は結核です。結核も中国から渡来人がもたらしたと考えられています。三世紀後半の弥生時代の古墳からは、結核に侵されて骨が変形する脊椎カリエスを起こした人骨が発掘されています。

結核は多くの人命を奪いましたが、もっとも悲劇的だったのは明治期、富国強兵の国策で設けられた紡績工場で働く女性(女工)たちが結核に

倒れたことでした。女工の多くは地方の農村から集められ、苛烈な労働環境と過密な寮生活で、それが結核の蔓延を生んだのです。免疫を持たない彼女たちの大半は数年で結核に倒れて田舎へ帰されました。明治から昭和初期にかけて、結核は、死因の第一位だったのです。

こうした歴史から何が学べるでしょう。一つには、大陸との交流という社会現象や産業化といった出来事が、ある感染症の流行をもたらしたということ。感染症の流行は、私たち「社会のあり方」がその流行に大きな影響を及ぼすということです。次に学ぶべきことは、感染症が社会に大きな影響を与えることがあるということ。天然痘の大流行は、仏教が日本で広がる契機となりました。それはその後の日本社会や日本人の考え方にも影響を与える出来事となります。

現在私たちは、新型コロナウイルス感染症の世界的流行に見舞われていますが、それは、私たちの社会のあり方を変える可能性があるということ。これを歴史は教えてくれています。そしてそれがどのような社会になるかを決めるのは、私たち一人ひとりなのです。